

2022年度 第1回理事会議事録

日 時 2022年5月13日 19:00～

場 所 WEBミーティング

出席者

林(会長/大島HP),加藤木(副会長/前橋保健所),鎌塚(副会長/上毛病院),中嶋(日本協会代議員/県立精神医療センター),横澤(顧問/くわのみらい),福永(ケ・クリニック),佐藤(田中HP),片山(アトデア),小林(あぜりあ),永尾(赤城高原HP),番場(あけぼの),富澤(西毛HP),鈴木(群馬HP),天笠(監事/三枚橋HP),狩野(事務局長/田中HP),原島,藤井(事務局/田中HP)

≪林会長挨拶≫

この役員体制になってから第1回目の理事会を始めさせていただきたいと思います。当会としては今までにない大きなプロジェクト、全国大会の開催に向けて取り組み、残すところあと3ヶ月半となりました。この全国大会については、2、3年前の理事の皆様で決議をとり、開催していく方向で今の理事の皆様を引き継がれています。全国大会に関しては日本協会の支部長会議やブロック会議等に参加した際に、日本協会本部の皆さん、北海道の皆さん、関東甲信越ブロックの皆さん、本当に多くの方々から応援の声をいただいています。開催の在り方として元々集合形式のみだったものを、コロナの感染状況を見て、集合形式だけでなくハイブリッドで実際に群馬県にいらっしゃらない方にも全国大会に参加していただき、広くソーシャルワークの実践報告を共有したいという思いで取り組んでいます。各部会の皆様に力を出していただき、良いものが少しずつ出来てきて形になってきています。

本日の理事会は明日の総会の話が中心になりますが、総会に向けて皆様から意見をいただきながら準備をすすめたいと思いますのでよろしくお願い致します。

1. 2021年度第6回理事会の振り返り (略)

2. 日本精神保健福祉士協会関連

≪2022年度支部長・事務局長会義報告≫

4月24日に支部長会がZoomで開催され、各都道府県の事務局長も参加した。国の精神保健医療福祉政策の動向について日本協会田村会長が説明。

今後の精神保健医療福祉体制を構築するものとして以下の7項目を国として議論している。

- ① 精神保健に関する市町村等における支援体制について
各市町村において地域包括ケアシステム、にも包括の構築、推進をしていく。市町村で様々な相談窓、相談機関の体制を整えるという話し合いが行われている。
- ② 第8次医療計画の策定について
令和6年のトリプル改定に向けての実効的な方針について検討している。
- ③ 患者の意思表示についての支援
第三者、医療職以外の方が本人の意思をサポートする役割の人をおくということが検討されている。
- ④ 医療保護入院
医療保護入院については廃止の方向で話が挙がっていたが、結果的には将来的になくす方向で議論していくこととなった。医師会の反対があるなどし、精神保健福祉士としては残念な結果となったという一面もある。
- ⑤ 患者の意思に基づいた退院支援
平成29年法改正の退院後支援のガイドラインを見直そうというもの。津久井やまゆり園の再発防止策を契機とした取り組みでないことを明文化する必要がある。警察の介入に関しては地域で差が出ないように依頼する対応を求めべき。
- ⑥ 隔離、身体的拘束を可能な限りゼロとするための最小化に係る取組
医療機関での拘束について処遇基準を明確にしようという話が出ている。現在のものと拡大解釈が出来てしまうので、なるべく具体的にしていこうとなっている。そもそも医療法に基づく人員配置基準を見直し、手厚い体制で医療を提供する必要があるのではないかと話し合われている。
- ⑦ 虐待の防止に係る取組
通知義務について、精神保健福祉法によって変えていけばよいのではないかと、病院の中で虐待防止委員

会を開くべき等の話がでている。

〈2022年度診療報酬改定について〉

今年度の改定で精神保健福祉士の評価が上がり、点数化されている。療養生活継続支援加算が新設。

〈子ども家庭福祉ソーシャルワーカー〉

国家資格化はいったん見送り、最終的には民間の資格に落ち着いた。早ければ2024年に資格化される予定。精神保健福祉士や社会福祉士で2年以上の実績経験がある人で、100時間程度の研修を受講して試験に合格すれば資格を取得できる。

〈認定精神保健福祉士の新たな更新制度〉

基本的に積み上げ式で会の中でスペシャリストを作っていく。事例検討会に参加したら何単位、全体研修に参加したら何単位、スーパービジョンに参加したら何単位といった積み上げ方式で、自分で点数をつけていく。自己研鑽し、見える化していく。

3. 事務局報告

〈新規入大会者〉

入会者2名、退会者7名 承認。

〈群馬県精神保健福祉協会定時総会〉

2022年5月14日開催。林会長が参加予定。

〈精神保健参与員推薦依頼〉

当会から希望者がいれば推薦する。対象は新規の方で5年以上の実務経験。県士会から推薦のため、当会会費未納無しの方。希望者がいれば、締め切りの4月27日までに事務局長に連絡する。研修は1日がかりの研修が2日間。当会以外に所属機関にも募集がかかっているため、そちらから推薦してもらう方法もある。

〈2022年度定時総会〉

1) 総会出欠連絡及び書面票決に関して

本日17時時点のものをChatworkで共有している。書面表決数は群馬県支部構成員56名で50.9%、県士会会員は116名45%。書面表決としてご意見が無い方に関しては賛成とみなすということで通知をしているので、提出ない方もいるが賛成多数となる。総会に参加を予定されている方で両方に入会している人は16名。県士会のみ9名。理事や事務局の人間も含めての数である。議案に関しての賛否について連絡いただいている方は全て賛成となっている。質問事項は特になし。

2) 2021年度事業報告報告者確認

教育研修委員会、小林理事。災害支援委員会、番場理事。司法ソーシャルワーク委員会、福永理事。基幹研修Ⅰ、富沢理事。ソーシャルワーカーデー委員会、福永理事。政策提言委員会、片山理事。全国大会運営委員会、横澤大会運営委員長。プレ全国大会、原島大会事務局長。広報委員会、福永理事。倫理委員会立上準備委員会、中嶋代議員。

3) 2021年度会計報告

会計報告一覧通りになる。監事より問題なく承認した。災害支援委員会の損失補填に関して質問があるかと思われる。運用上の事務手続きなどコロナ禍で中々直接会うことが難しいかと思うが、領収証授受などスムーズにやる必要がある。精算できてない事業費は予算編成に組み込まれている状況。

4) 2022年度事業計画案報告者確認

教育研修委員会、小林理事。災害支援委員会、永尾理事、業務次第で番場理事。司法ソーシャルワーク委員会、福永理事。こころのふれあいバザー展、鎌塚副会長。基幹研修Ⅰ、富沢理事。政策提言委員会、片山理事。全国大会、原島大会事務局長。広報委員会、福永理事。倫理委員会、中嶋代議員。状況により林会長。ソーシャルワーカーデー委員会、検討。

5) 2022年度予算案。

基本的には昨年度と、提出された事業案の予算案に基づいて作成されている。若干異なる点は、7月の定例会をプレ全国大会にするという話があったので、定例会の会場費がそれを見越して若干高く設定されている。昨年度はプレ全国大会の予算をとったが、今年度はそれがない。

〈2022年度第2回定例会〉（中部地区担当）

- ・7月8日(金)14:00～16:00 Gメッセ中会議室を13:00～17:00で確保。プレ全国大会と位置付けた研修会を行う予定。詳細は加藤木さんが送信したファイルを参照して欲しい。全国大会の流れを体感するような企画を考えている。
- ・会場費について、11,508円が30%の金額。支払い期日が5月23日だが、キャンセルになればこの金額がキャンセル料に該当する。残りの26,852円を6月24日までに振り込む必要があるが確実に利用するなら一括で支払い、手数料1回分で済ませる方法もあるがどうするか？
→キャンセルの可能性も考え、先に30%のみ支払う。
- ・定例会当日、県士会の会員の方にはGメッセの駐車場代の負担をしては、という案が出ている。午後の定例会の部分については県士会の方で負担し、夜間開催予定の企画委員会については全国体大会の運営費で負担。夜まで参加すれば全国大会の運営費からでよいが、午後の定例会部分のみの参加者へはどうするか？
→Chatworkで検討していく。

4、各事業報告

【基幹研修Ⅰ】

全国大会開催に伴い、開催予定を2023年2月18日と例年より遅く設定している。

【教育研修委員会】

今年度第1回目の研修会として7月8日の定例会の研修を教育研修委員会とのコラボを予定。1回目の会議を6月にオンライン形式で予定。2回目、3回目は全国大会終了後に計画。開催方式としてはオンライン形式。決済システムはPeatix。予算は15万円。委員会体制として若干変化がある。

【全国大会運営委員会】

協賛広告について正式な文書が発送となった。開催方式は集合形式だったが、ハイブリッド形式で行うことになった。具体的にどう動いていくかについては運営委員会で決めていく。日本協会本部の協力のもと大会HPを準備中。5月16日に公開予定。

次回の県士会の発送物の中に第3弾のチラシを封入させてもらう。立派な厚紙で作ってあり卓上ポップとなっている。新しいPRの仕方。日本協会の構成員の方には5月の定期刊行物発送時に封入される。

総会案内の発送から全国大会の封筒を使用。大会HPに広報部会で作成したチラシや卓上ポップなど、日ごろ役に立つメモパッドもダウンロードできるようにしていく。北海道に出向き皆さんにPRする機会がなかったので、群馬ではHP反映していきたい。

【こころのふれあいバザー展】

今年は当会の全国大会開催もあり、早々に中止が決定している。

【政策提言委員会】

今後検討していく。

【災害支援委員会】

首都圏災害ネットワークの講師謝礼金の件。早々に準備し4月5日に事務局に振り込みをしてもらった。講師にも一報入れ、事なきを得たことを報告させていただく。6月に委員会を開催予定。そこで日本協会の災害対策委員の推薦を協議していく。4月20日に群馬DWATの活動展開にかかる機能検討会があるので、また次回理事会で報告する。

【司法ソーシャルワーク委員会】

来年の1月に保護観察所に打診して性犯の再犯防止についてどんな取り組みをしているのかをメインに講演会を考えている。隣県の栃木県や石川県にも声かけて、一緒にやろうかと思っている。全国大会のプレ企画、分科会に演題を提出しているため、委員会で打ち合わせをしている。

【ソーシャルワーカーデー委員会】

幹事団体が社会福祉士会。本来なら当会が幹事だが全国大会の関係で引き受けてもらった。テーマがソーシャルワークの実践からこぼれ落ちてしまうような対象者の方への支援についてを検討している。

精神保健福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会、社会福祉士会から寄り添い型支援をしている人を実践報告者として5月中に一人選出しなければいけない。司会は加藤木さん。

【倫理準備委員会】

本来なら今年度から正式にと考えていたが全国大会等あるため、来年度まとめていきたい。

【広報委員会】

先日広報誌を発行した。次回は未定。調整していく。

5、第57回全国大会・第21回学術集会関連

〈7月8日の駐車場代について〉

- 教育研修委員と中部地区と一緒に、全国大会の決起集会的な意味も含めるとたくさんの人に参加してほしい。会場費3万円は高いかもしれないが、それだけ価値のあるものだと思う。1施設1台支払うという案であったが、施設の規模で違うと思うし、駐車場代は会で負担して良いのでは。
- そもそも定例会なので日本協会から支出されるのは筋違い。全額、群馬県精神保健福祉士会が負担すべき。1事業所に1人のところもあれば、20人もいる事業所があるので、同一500円では不公平感がある。事業所ごとに会費を回収しているわけではなく、会員一人一人から回収しているので、会員一人一人に還元すべき。
- 2022年度の予算の中に旅費、交通費があるので、これを当てても良いのではないかな。
- 事業所ごとでなく、可能であれば個人個人で県士会で負担出来れば良いと思う。
- こんなご時世ではあるが、なるべく多くの人に集まっていたら決起集会として盛り上げたい。定例会の一企画ということなので、会に負担してもらえたらありがたい。
- 余剰金があるのであれば、会で負担して良いと思う。
- 企画委員会であるが、本部からもGメッセに来るので運営委員全員参加。県士会の定例会なので、余剰あれば会で負担すると思う。
- 定例会なので会から出せば良いと思う。
- 会に参加された一人一人に支払で、還元だということをちゃんとアピールした方が良いと思う。
→定例会部分の駐車場代は県士会で負担することとする。企画委員会のみの参加者については後程検討する。

〈その他〉

- 群精社協に物販の依頼をかけるにあたって片山さんのお力をお借りすることになった。
- 相談支援専門員協会には田中病院高見沢さんから報告。

6、その他の報告・検討事項

〈事務局より〉

- 日本ソーシャルバスケットボール協会から後援依頼が来ている。「ソーシャルバスケットキャラバン」というイベントの企画。詳細はchatworkにて報告済み。承認いただけるか？
→意義なく承認。
- 去年、政策提言で教育についても上げた。今年度、40年ぶりに高校生の保健体育に精神保健が載るということで教科書を見た。精神保健関係の病気だけでなく、資料集をみたらスティグマについての記述もあった。執筆は群大の福田先生がされている。

〈文責：藤井〉